

事業名 (箇所名)	東京国際空港C滑走路延伸事業			担当課	航空局 航空ネットワーク部 空港計画課		事業 主体	関東地方整備局 東京航空局 気象庁		
				担当課長名	小池 慎一郎					
実施箇所	東京都大田区									
該当基準	事業完了後一定期間(5年以内)が経過した事業									
主な事業の 諸元	C滑走路(3,000×60m)の南側360m延伸									
事業期間	事業採択	平成21年度	完了	平成26年度						
総事業費(億円)	採択時	300		完了時	212					
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <p>・東京国際空港の滑走路運用において、深夜早期時間帯(23時～5時台)については、市街地への騒音低減のため、C滑走路を短縮(3,000m→2,500m)して使用していたため、離陸に長い滑走路長を必要とする長距離国際線の大型航空機の就航等に制約が発生していた。</p> <p><達成すべき目標></p> <p>深夜早期時間帯の長距離国際線に大型航空機が就航できるようにする。</p> <p><政策体系上の位置付け></p> <p>・政策目標: 6. 国際競争力、観光交流、広域・地域間連携等の確保・強化</p> <p>・施策目標: (24)航空交通ネットワークを強化する</p>									
費用対効果 分析の算定 基礎となった 要因の変化	<p>○分析対象機材: (再評価時)大型機(B777-300ER)、中型機(B777-200ER) → (事後評価時)大型機(A350-1000、B777-300ER)、中型機(B777-200ER、B787-9、B787-8)</p> <p>○分析対象路線・便数: (再評価時)6都市、7便/日 → (事後評価時)5都市、5便/日</p> <p>○時間価値: (再評価時)3,332円/時間 → (事後評価時)2,918円/時間</p>									
事業全体の 投資効率性	基準年度			令和元年度						
	B:総便益 (億円)	396		C:総費用(億円)	315	全体B/C	1.3	B-C	81	EIRR (%)
事業の効果 の発現状況	本事業の実施により、深夜早期時間帯における長距離国際線に大型機が就航しており輸送能力の強化が図られている。									
事業実施に よる環境の 変化	当該事業は既存空港用地内にて滑走路延伸整備を実施しており、事業実施による環境の変化は特になし。									
社会経済情 勢等の変化	平成26年3月より東京国際空港の国際線発着枠が拡大(昼間3万回、深夜早期3万回 → 昼間6万回、深夜早期3万回)され、長距離国際線の路線数が増え、乗降旅客数も増えている。									
今後の事後 評価の必要 性	事業目的に見合った事業効果の発現が確認されており、今後の事後評価の必要はない。									
改善措置の 必要性	事業目的に見合った事業効果の発現が確認されており、改善措置の必要はない。									
同種事業の 計画・調査の あり方や事 業評価手法 の見直しの 必要性	現時点で同種事業の計画・調査のあり方や個別の事業評価手法の見直し等の必要性はない。									
対応方針	対応なし									
対応方針理 由	事業目的に見合った事業効果の発現が確認されたため									
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p>対応方針(案)の通り了承。</p> <p>ただし、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性については、今後、空港整備事業全般を通じて、必要に応じ評価手法の見直し等を検討すること。</p>									

位置図



概要図

